

スギ花粉症等に関する調査研究について

環 境 省

平成17年2月15日

1 花粉飛散予測・観測について

花粉飛散予測については、環境省として本年度初めて公表したところであり、精度向上について検討を行うためには、更なるデータの積み重ねが必要である。今後、花粉飛散予測を継続していく中で、精度管理についても検討していく予定である。

また、花粉観測の最大の課題は観測地域の拡大である（現在は、関東、中部、関西のみ）。そのため、環境省では、平成17年度以降も花粉自動計測器が設置されていない地域に順次設置し、花粉観測体制を強化することとしている。

2 スギ花粉症と大気汚染の相互関係に関する研究について

大気汚染物質が花粉症を悪化させている可能性があるという報告があるが、その関連については、なお評価が分かれている。そこで、この仮説を検証するために環境省では 動物暴露実験、疫学調査を実施してきた。

これまで得られた成果から、

- ・ 動物実験において、モルモットに実際の環境中濃度の数十倍の粒子状成分を含むディーゼル排気（DE）を暴露した場合に、アレルギー症状を増悪させる等の実験結果が得られた。
- ・ 疫学調査において、スギ花粉症がスギ花粉飛散数の影響を受けることが明らかとなったが、現在の環境における大気汚染がスギ花粉症を増悪させるという明確な結論は得られなかった。

今後は、スギ花粉症と大気汚染の相互関係に関する研究のうち疫学調査として、成人の花粉症患者の発症時期とその後の症状の推移、居住歴、職業歴等との関係について検討を行う予定である。